



# セミのぬけがら探しのコツ



## 根元の穴を探しましょう

木の根元を見ると、直径1cmくらいの穴が空いていることがあります。根元の穴はセミが土から出てくるときに空けたものです。穴が多いところでは、多くのセミが出てきたことがわかります。

## 根元、木の幹、枝先へと目を向けていきましょう

セミは土から出てきて、羽化するために木の幹を登っていきます。体の大きなクマゼミやアブラゼミはかなり高いところまで、登っていきますが、ニイニゼミのように地上から1.5mくらいまでのところで羽化するセミもあります。いろんなセミを探すためには、一部だけを見ないで、根元から上に探していきましょう。

## ぬけがら探しの極意

上の内容は基本ですが、ぬけがらは、雑草の葉っぱや木の杭、手すり柵、ほうきの柄の先でも見つかることがあります。一番大切なのは、セミの気持ちになること。羽化しやすい(登りやすい、つかまりやすい)場所を探しましょう。

### ぬけがらの見分けかた(セミの絵とき検索)



都市部で特に多い

**クマゼミ**



出べそがある  
(他の5しゅるいにはない)



おなかの色は3色



**サイズ 特大**

山地にとっても多い

**ヒグラシ**

ツヤがある

おでこが低い

どこでも多い

**アブラゼミ**




触角は毛深く、  
付け根から  
3つ目が太い

おなかの色は2色





おでこは  
横から見て  
顔と平行



前足の太ももの歯は  
やや下側で  
下向きに出る

夏の後半にたくさん出てくる

**ツクツクボウシ**




長細く、ツヤがない

おでこが高い

**サイズ 中**

山地・山間部でよく見つかる

**ミンミンゼミ**



おでこは  
横から見て  
顔より高まる



触角は毛が少なく  
付け根から3つ目は  
前後と同じ




前足の太ももの歯は  
やや中央に近く  
横向きに出る

**サイズ 大**

都市部では見られなくなりつつある

**ニイニゼミ**



丸くて小さい!  
ドロをかぶっている

**サイズ 小**

※ほぼ実物大で表示しています。

# セミと セミのぬけがら



## セミの一生

### 産卵(さんらん:卵を産むこと)



孵化した幼虫は、木の根の汁などを吸いながら地中でしばらく過ごします。

■ セミは卵から成虫までの一生がとても長い昆虫です。その期間はセミの種類によって違って、ツクツクボウシで最長3年、ニイニイゼミで4年、アブラゼミやミンミンゼミでは6年かかります。

■ 交尾が終わったメスは枯れ枝などに産卵管をさしこんで数個ずつ産卵します。オスが鳴くのは繁殖のためだといわれています。

### 孵化(ふか:卵からかえること)



羽化の時期になると地上へ顔を出します。

■ ニイニイゼミ、ヒグラシなど早めに現れるセミの卵は、その年の秋に孵化しますが、現れる時期の遅いアブラゼミ、クマゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシなどは、翌年の梅雨の頃に孵化します。

■ 孵化した幼虫は地上に落ち、前脚を使って土の中にもぐっていきます。孵化には適度の湿気が必要のようで、雨の量が、卵が孵化する割合に影響するようです。

■ 地中にもぐった幼虫は、木の根の汁を吸いながら、4回の脱皮をして(5齢まで)成長し、羽化を迎えます。

### 羽化(うか:幼虫またはさなぎから成虫にかわること)



木の幹を登った幼虫は、やがて羽化します。

■ 羽化が近くなった地中の幼虫は、地上の近くまで移動し、薄い土の天井を持った部分で出て行く時を待ちます。

■ 外気などの条件が整うと、幼虫は夜、土の中から地上に出て、木の幹を登り羽化します。

■ 羽化の時期は、ニイニイゼミでは、午後4時前から始まり、8時がピークになります。アブラゼミは、午後7時ごろから始まり、8、9時頃ピークになります。

■ 羽化した成虫は、体の色も白く、すぐには鳴くことができません。アブラゼミでは、4～5日経ってから鳴くようになると言われていいます。

■ 鳴くようになると、成熟し、交尾もできるようになります。



参考: 宮武頼夫著「検索入門セミ・バッタ」(保育社)